

# 両沼地方稲作情報 第6号

令和5年8月8日

発行：福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2112)  
" 金山普及所 (電話0241-54-2801)

J A会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店、(有)山一米穀店、  
会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区



QRコード

会津坂下農業普及所のHPでは、これまで発行した稲作情報を掲載しております。  
その他、様々な情報を発信しておりますので、お気軽にご覧ください。

「両沼」+「稲作情報」で検索！

⚠️高温障害が懸念されます！

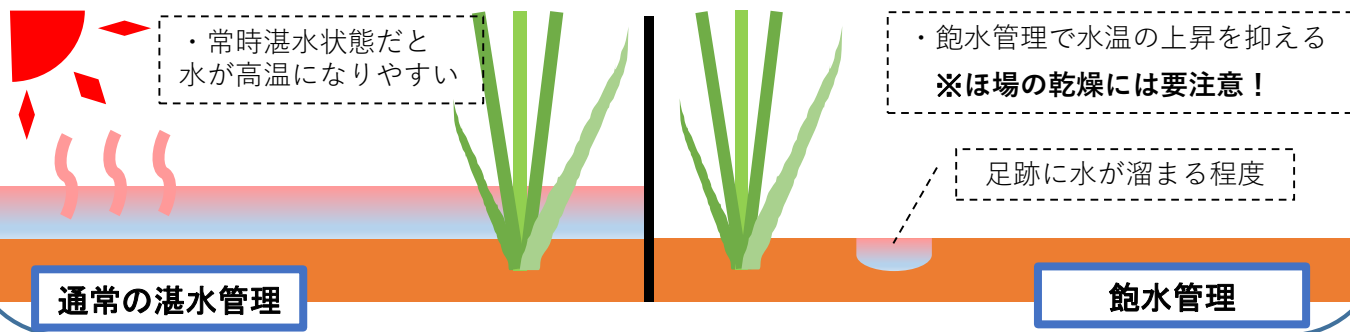
⚠️草丈が長いほ場が多く、風雨による倒伏が懸念されます！

## 1 気象情報（気象庁 東北地方 1か月予報（8/5～9/4））

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。東北日本海側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

⚠️高温障害が懸念されます！

登熟期前半（出穂後20日間程度）に高温が続くと、白未熟粒等の品質低下が懸念されます。高温が続く場合は、地域の水量を考慮し、飽水管理（ひたひた水状態）等で地温の上昇を抑制しましょう。



## 2 生育状況

草丈及び葉色は平年よりも大きい傾向があります。出穂期は平年並ですが、平年より3日程度早いほ場も見られます。

表1：水稲作柄解析試験データ（会津地域研究所8/8時点） ※移植日：5/18、栽植本数：20.8株/m<sup>2</sup>(30cm×16cm)

品種名		草丈(cm)	莖数(本/m <sup>2</sup> )	主稈出葉(葉)	葉色(SPAD値)	出穂期
コシヒカリ	本年	94.5	618	13.0	32.5	8/3
	前年	(欠測)	(欠測)	(欠測)	(欠測)	(欠測)
	平年比	110%	112%	+0.2	+2.1	-1
ひとめぼれ	本年	92.2	616	13.1	37.1	7/29
	前年	81.0	648	12.8	32.3	8/1
	平年比	110%	97%	+0.3	+0.9	±0
天のつぶ	本年	86.6	597	12.4	39.9	7/31
	前年	78.1	580	12.0	33.5	8/3
	平年比	111%	102%	+0.4	+2.9	±0

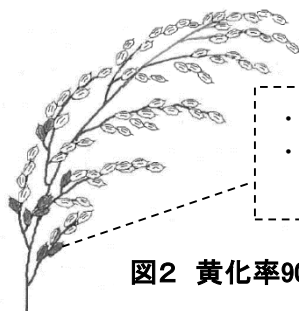
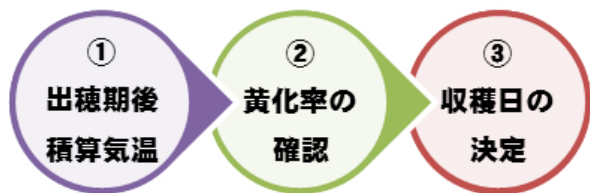
### 3 品質向上対策

#### (1) 落水時期について

- ・開花後25日間は米粒が急速に肥大しますので、間断灌漑により少なくとも出穂後30～35日は水を切らさないようにしましょう（ほ場の土壌条件や気象によって落水時期を調整）。

#### (2) 適期刈取りについて

- ・高温により登熟が進み、刈取り適期が平年よりも早まることが予想されます。
- ・出穂後日数及び積算気温を参考に収穫作業計画を立て、実際の籾の黄化率を確認して適期刈取りを行いましょう。
- ・刈取り時期の目安は、おおむね出穂40～45日後で、出穂後の積算気温が950～1050℃に達し、籾の黄化率が80～90%になった時期です。



- ・黄化していない緑色の籾
- ・下位の一次枝梗籾や、二次枝梗籾の黄化が遅い

図1 収穫日の判断のしかた

図2 黄化率90%の稲穂

表2 出穂後の積算気温(予想を含む)に基づく刈取適期到達日

品種	出穂期	到達日(予想)			
		950℃	1,000℃	1,050℃	1,100℃
ひとめぼれ(平坦部)	7月31日	9月7日	9月9日	9月12日	9月14日
コシヒカリ(平坦部)	8月5日	9月13日	9月16日	9月18日	9月21日
ひとめぼれ(山間部)	8月3日	9月14日	9月17日	9月19日	9月22日
直播コシヒカリ(平坦部)	8月12日	9月23日	9月25日	9月28日	10月1日

- ※8月7日までは実測値(日平均気温)を、それ以降は日平均気温の平年値(過去30年間)を使用した。
- ※平坦部は若松アメダス、山間部は金山アメダスのデータを使用した。
- ※出穂期は、会津坂下農業普及所で実施している作柄概況調査の今年度の出穂期を使用した。
- ※直播コシヒカリの出穂期については、作柄概況調査の平年値を使用した。

### ⚠️草丈が長いほ場が多く、風雨による倒伏が懸念されます！

- 倒伏により受光体勢の悪化および通導組織(茎)の損傷が発生します。
- 軽度の倒伏では、登熟遅延となるため、ほ場毎に登熟を確認し、適期刈取りしましょう。
- 重度の倒伏では、登熟不良となり、収量・品質が低下します。
- 倒伏により地面に密着した籾は、冠水や降雨が続くことで穂発芽が発生しやすくなるため、その前に刈取りましょう。  
(※「里山のつぶ」は穂発芽しやすいため特に注意！)



図3 倒伏ほ場

### 4 秋の稲わらすき込みについて

稲わらは貴重な有機資源です。燃やさずに、水田にすき込むなど有効に活用しましょう。生わらのすき込みは、土壌を柔らかくし、地力を増やす効果があります。

稲わらのすき込みは、秋に行くことで春すき込みよりも腐熟が進み、土壌の強還元化による生育障害が軽減されます。ポイントは、収穫後できるだけ早く、浅耕(5cm程度)とし、稲わらの分解を促進させることです。また、石灰窒素(20kg/10a)等の施用も効果的です。

※春の作業性を考慮し、実施するほ場を選定しましょう！

○今年も節水に御協力お願いします。

○収穫作業の際は、コンバインの事故(転倒・巻き込まれ等)にご注意ください。